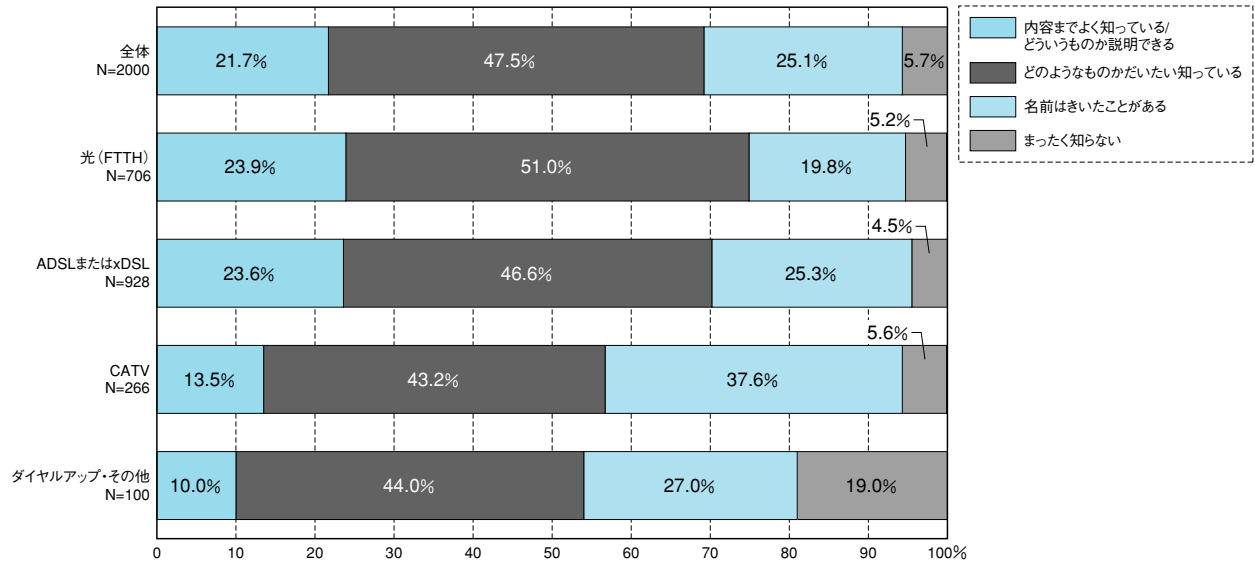


IP電話

IP電話の認知度は94.3%とほぼ浸透

資料2-8-1 IP電話の認知度 [全体と接続回線別] N=2,000

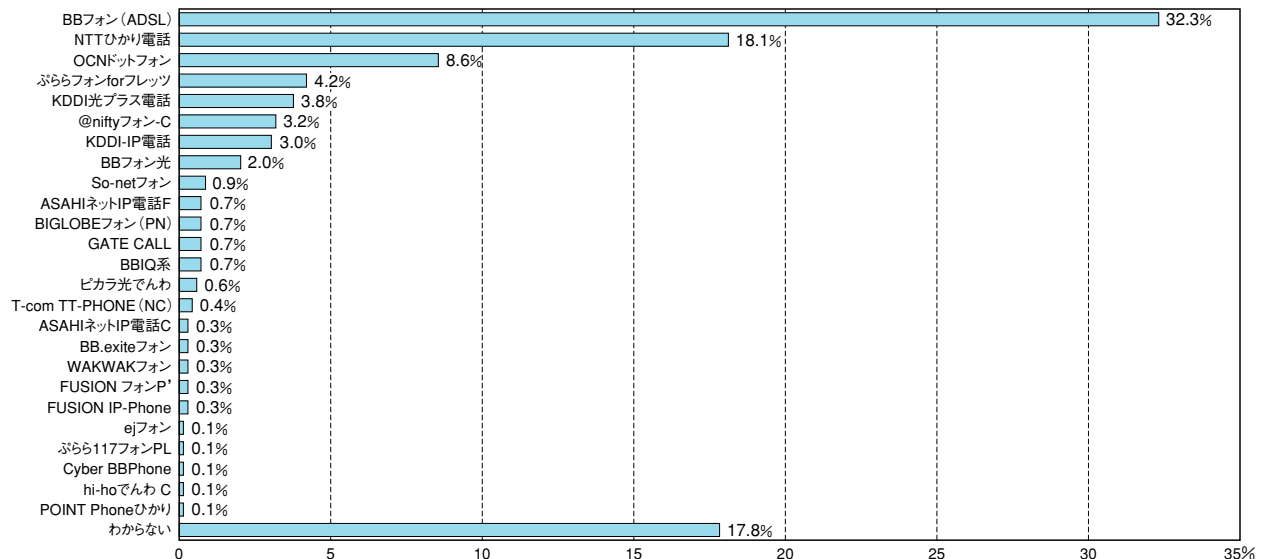


IP電話の認知度をみると、「名前を聞いたことがある」も含めた認知度は94.3%と、インターネット利用者のほとんどが認知している。回線別にみた場合、光 (FTTH) やADSLでは、「どのようなものかだいたい知っている」までで7割以上と理解度が高い。一方で、CATVや、IP電話サービスが利用できないダイヤルアップ利用者の理解度は低く、5割近くが「名前を聞いたことがある」「まったく知らない」と回答している。

©impress R&D,2007

「BBフォン」がトップ、NTT系のサービスの合計が肉迫

資料2-8-2 現在利用しているIP電話サービス会社(単一回答) N=690



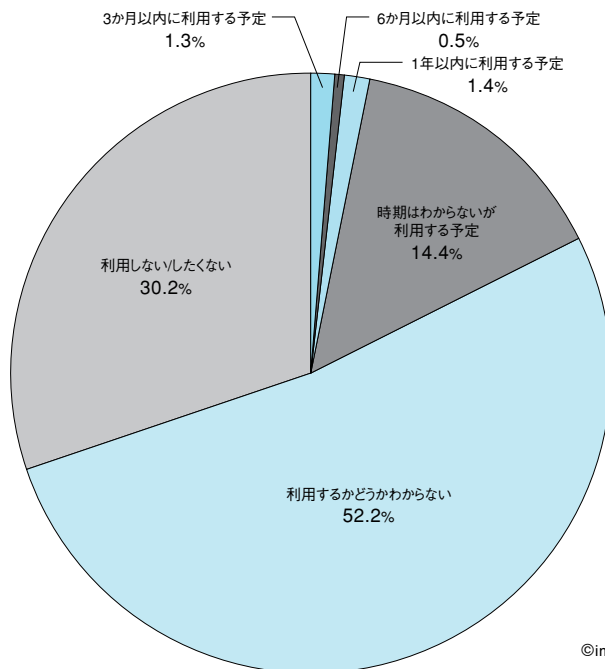
第1部で調査したIP電話の世帯普及率は18.8%である。これは光電話および050で始まる電話番号のIP電話利用者に、現在使用しているIP電話サービス会社を聞いたものであるが、トップはADSL事業者の4割のシェアを持つソフトバンクBBが提供する「BBフォン (ADSL)」で32.3%である。次いで、NTT東西の「フレッツ」で提供されている「NTTひかり電話」「OCNドットフォン」「ぶららフォンforフレッツ」の利用比率が高い。

©impress R&D,2007

## IP電話

### 非利用者のIP電話利用意向は17.6%

資料2-8-3 非利用者のIP電話の利用意向 N=1,172

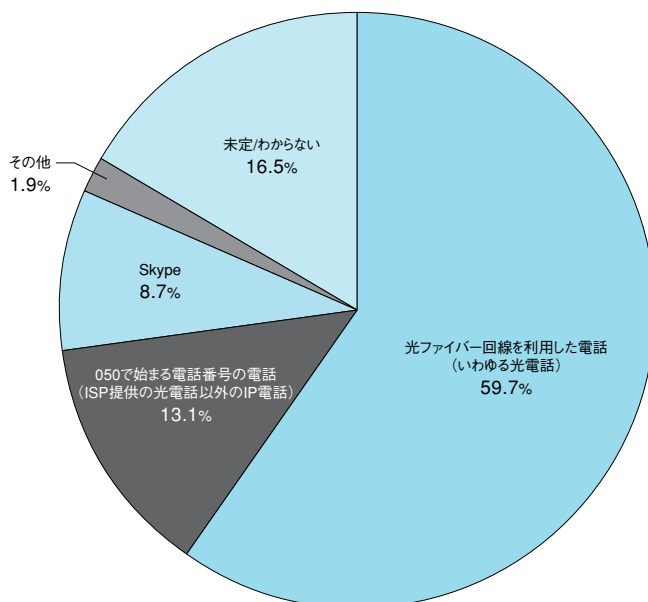


©impress R&D,2007

IP電話非利用者の今後のIP電話の利用意向では、時期を問わず利用する予定がある人は17.6%にとどまり、利用意向は限定的である。ただし、固定電話とほぼ同じ機能が利用できる光電話の知名度が宣伝やキャンペーンなどで上がってきていることから、「利用するかどうかはわからない」と回答した過半数の層が、今後IP電話を利用する可能性も高いと思われる。

### 導入予定は光電話が6割

資料2-8-4 IP電話導入予定者のサービス種別 N=206



©impress R&D,2007

IP電話導入者の予定しているサービス種別をみると、「光ファイバー回線を利用した電話」が6割を占める。やはり、宣伝やキャンペーンなどの効果により光電話の認知が上がり、広く普及し始めている状況がわかる。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)